



生徒指導訪問お世話になりました!!



1月19日(金)、今年度の生徒指導訪問を終えることができました。今年度は、水戸教育事務所管内の加配教員(生徒指導主事等)が配置されている43校の小・中・義務教育学校を訪問させていただきました。訪問では、各校がいじめ・不登校の未然防止とその対応のために、様々なアイデアや工夫をしながら、先生方がチームとなって児童生徒を支援している様子を見させていただくことができました。特に、学校の特別活動や授業において、児童生徒の考えや思いを基にした活動を取り入れていたことは、児童生徒の意欲や主体性の向上につながり、魅力ある学校づくりにつながっていると感じました。

また、今年度の訪問では、生徒指導提要(令和4年12月改訂)に示されている「授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場」の下、生徒指導の実践上の4つの視点を意識した授業について、各学校と情報を共有させていただきました。中学校の数学科のグループ学習で、他の人から聞かれた内容に一生懸命答え、それを認められた生徒がもった肯定的な感情や、小学校の社会科の授業で、課題解決に向けて、自分で選んだ方法でその解決に迫っている児童の意欲の高まりなどは、私たちが授業で目指す一つの姿として捉えることができました。

私たちが、授業づくりにおいて、生徒指導の実践上の視点を意識してに取り組んでいくことで、学習指導と生徒指導の一体化が図られます。これからの授業では、そのような発達支持的生徒指導により、児童生徒の自己指導能力の獲得につなげ、生徒指導の目的を達成することがとても重要となります。

年度末にあたり、先生方におかれましては、今年度の授業をこの4つの視点で振り返りながら、次年度につなげていただければと思います。

【生徒指導の実践上の4つの視点】

- 1 自己存在感の感受を促す授業づくり
- 2 共感的な人間関係を育成する授業
- 3 自己決定の場を提供する授業づくり
- 4 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業

学習指導と生徒指導の一体化

春夏冬話(あきない話)



人として・・・



テレビで「学園もの」と言われるドラマが数多く放映されて、「職業柄」というわけではないが、いくつかハマって視聴していた。中でも、1979年から2011年にかけて放映された中学校を題材にしたドラマは、人気があり、ハマった方も少なくないのではないだろうか。特に最初のシリーズは、人気があり、挿入歌「贈る言葉」は、その後数多くの学校で、卒業式の歌として今でも使われている。しかし、自分としては、初回シリーズの翌年放映された第2シリーズの挿入歌「人として」の方が気に入っている。

「遠くまで見える道で 君の手を握りしめた 手渡す言葉も 何もないけど・・・」で始まり、サビの部分は「人として人に出会い 人として人に迷い 人として人に傷つき 人として人と別れて それでも人しか 愛せない」と終わる歌である。

現職の頃は、ほとんどが中学校勤務であった。特に若い頃は、(今でも十分若いと思っているが・・・)生徒指導に追われ、昼夜問わず、問題行動、不登校対応に取り組んでいた。しかも、「成果が上がった」と感じるには程遠い日々を過ごしていた。そんな時、自分の「折れない心」を支えてくれた1つがこの歌だったかもしれない。

「人として人に出会い 人として人に迷い 人として人に傷つき 人として人と別れて それでも人しか 愛せない」

学校現場も時代が変わり、「学力向上」、「授業改善」、「働き方改革」において、いろいろな場面で、ICTやAIの役割が重要になってきている(当然必要なことではある)。しかし、どれだけ時代が変わろうと、当然ながら「人として」子供たちに向き合うことは、ICTやAIでは役割を果たすことができない、現場の教師にしかできない「役割(プライド)」である。(by S・H)